

あぐりサポートニュース

福島県農業振興公社だより

第 6 号 平成13年12月

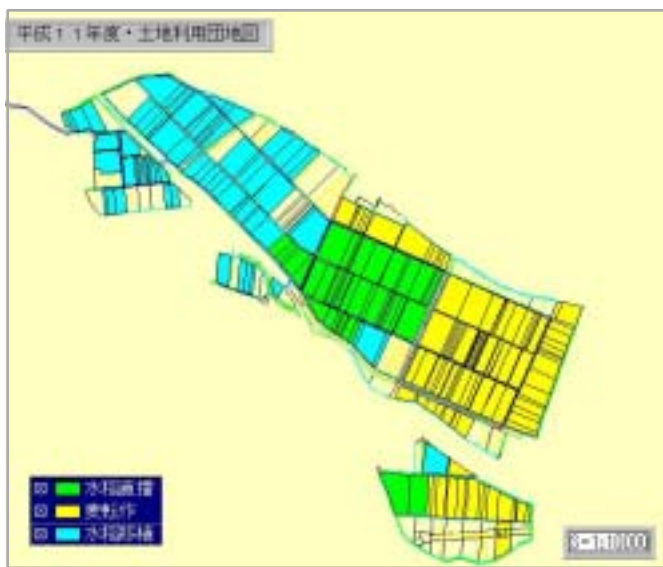
発行元 福島市中町8番2号

財団法人福島県農業振興公社

TEL 024-521-9833 FAX 024-524-2393

ムラが動く！ part 3

公社の農地保有機能を活用したむらぐるみブロックローテーション



集積が行われた農地：原町市 高地区

全体面積：80 ha

農家戸数：1集落101戸



農地調整課

「第7回農地保有合理化事業推進フォーラム」の開催

平成13年9月27日、東京都内の星陵会館ホールにおいて、「第7回農地保有合理化事業推進フォーラム」が、社団法人全国農地保有合理化協会の主催により開催されました。

農地保有合理化事業発足30年を向かえた今回のフォーラムは、新農業基本法において農地保有合理化事業の果たすべき役割が益々大きくなっていることから、「21世紀の農地保有合理化事業」と題し横浜国立大学国際社会科学部教授田代洋一氏の基調講演が行われました。

また山形県、大分県の農家が規模拡大の手法として農地保有合理化事業を活用した経緯や現在の経営内容などの事例紹介や農地保有合理化事業30年の蓄積と21世紀に向けた新たな農地保有合理化事業の展開等について、意見交換がなされました。

本県からは、県12名、市町村2名、公社2名計16名が参加しました。



平成13年度農地保有合理化事業新任担当者研修会



県内市町村及び農業委員会の新任担当者を対象とした、農地保有合理化事業新任担当者研修会を平成13年9月26日に郡山市の「福島県ハイテクプラザ」で開催しました。

研修会には、新任担当者60名が参加し「農業経営基盤強化促進法と農地保有合理化法人」、「農地保有合理化事業」、「農地保有合理化事業に係る事務取扱」、「農地保有合理化総合推進事業」等について研修会を行いました。



青年農業者等育成センター

S A F会（白河農業友の会）代表4年連続で、全国大会へ！

～ 蛭田貴志さん（S A F会）

プロジェクト発表会で最優秀賞～



平成13年11月13日～15日の3日間、青森県野辺地町を会場に、第32回東北農村青年会議が開催されました。

この会議には、本県から、当育成センターが派遣したプロジェクト発表会等の県代表2名を含む青年農業者14名が参加しました。

本県代表の蛭田貴志さんが最優秀賞（農北農政局長賞）を受賞し、来年3月に東京で開催される青年農業者会議に、東北代表として発表することになりました。

なお、本県代表として発表した2名は、以下のとおりです。

- ・ プロジェクト発表 蛭田貴志さん（S A F会）
- ・ 意見発表 斎藤篤史さん（福島市農業後継者連絡協議会）

スポーツ・郷土民芸体験で交流深める

～ アクティブステジ2001 in あいづ ～

平成13年11月10日～11日の2日間、会津若松市を中心とした会場で、「アクティブステジ2001 in あいづ」を開催しました。

この「アクティブステジ」は、農業青年等の交流を目的に当育成センターと県農業青年クラブ連絡協議会の共催で、県内4方部持ち回りで毎年開催しています。

今年は、県内のほかに栃木県からの参加者など、総勢80名が参加し、スポーツ・郷土民芸体験で交流を深めました。



（農業青年達のスポーツ交流風景）

総務課

特定鉱害復旧事業等を行う法人に指定される

当社は、新たな事業として、地表から深さ50メートル以内の採掘跡又は坑道跡の崩壊に起因する鉱害の復旧事業として、13年度より特定鉱害復旧事業等を行うことになりました。

当該事業の対象市町村は、次の14市町村です。

- いわき市・原町市・須賀川市
- ・ 相馬市・鏡石町・山都町
- ・ 会津高田町・塙町・浅川町
- ・ 広野町・楢葉町・浪江町
- ・ 鹿島町・表郷村



「 出 会 い が 大 事 」



保原町 原田 貴広

私が就農してから4年が経ちました。初めの頃は「お父さんが会社員なのによく継ぐね」と言われていました。そう、いわゆる第2種兼業農家でした。農業は高校、短大と習ってきたので、すこしはわかっていました。しかし専門的な技術が足りないため福島県青年農業者等育成センターの経営開始支援資金を活用し、先進地農家の研修、流通（市場、量販店）の研修等を行いました。就農のきっかけ

は高校の時、試食で食べたトマトの甘さにカルチャーショックをうけ「これを作ってやる」と思い真剣に取り組み始めました。研修先では、経営の厳しさを教えていただきました。農家は出会いが少ないという概念をひっくり返したのは、農業青年クラブでした。異業種交流や仲間達と話すことによっていろいろな情報が手に入ります。そう、私が日頃大事にしているのは「出会い」です。トマトとの出会い、研修先の方との出会い、仲間との出会い、いろいろな出会いがなければ今日の私はないと思います。これからも「出会い」を増やし頑張っていきたいと思います。そしてお客様の顔がみえる農業を目指したいと思います。



編 集 後 記

21世紀最初の年も、間もなく閉じようとしています。今年を振り返ってみると、経済情勢の悪化による失業率の増大、アメリカの同時多発テロ、そしてアフガニスタンへの報復攻撃、さらには、日本国内における牛海綿状脳症問題と暗いニュースが続きました。とりわけこの牛海綿状脳症問題は、国内の畜産農家へ大打撃を与えました。一刻も早く感染源が究明されて、畜産農家の経営安定が図られることを切に願っています。 K . K

問 い 合 わ せ

あて先 〒 960-8681
福島県福島市中町 8 番 2 号
財団法人福島県農業振興公社 総務課
TEL 024(521)9834 FAX 024(524)2393
みなさんのご意見ご感想をお寄せください。

この広報誌は、再生紙を利用しております。

「あなたを、守る シートベルト 忘れないでね」